

国際ソーシャルワーク研究セミナー

カナダにおける先住民ソーシャルワークの歴史的発展と進化する実践モデル
社会政策と先住民固有の知に基づく精神保健福祉アプローチに焦点を当てて

日本、そしてアジアの仏教ソーシャルワーク研究から 「インディジナス・ソーシャルワーク」への問いかけ

2023年6月10日

日本女子大学目白キャンパス 120年館 1200教室 & ウェビナー

日本ソーシャルワーク学会 国際委員
(淑徳大学アジア国際社会福祉研究所)
松尾加奈



「先住民に係る社会政策と進化する知と経験に基づいた精神保健福祉実践」（ジョイスティンプソン先生、リディア シャーマン先生、サリーバンティング先生）からの学びとして

事実: 1880年から1960年代まで、150,000人の先住民の子どもたちが強制的に両親やコミュニティから引き離された生活を強いられたこと。

事実: 植民地支配により、先住民が土地や生計手段を奪われただけでなく、文化、言語、アイデンティティや人権も奪われたこと。

事実: カナダ政府が「過去のあやまち」を認識していること。

続き…

- 差別、深刻な貧困や精神衛生上の課題は未だ解決されずに存在している。
- 現在、文化に配慮した取り組みにおいて先住民自身が積極的に声を上げ、牽引していること
- 母語、自分自身の言語を奪われることは、人々のアイデンティティを奪うことである。
- 人々の持つ文化や生活に根ざしていないメンタルヘルス・ケアでは意味がない。
- 言語の権利を剥奪する暴力を意識しない政策は、人々の生活ばかりか存在を消してしまいかねない。

日本のソーシャルワーク研究者として振り返ってみる「我々はアイヌ人に対してどうしてきたか？」

- 北海道に人類が住み始めたのは2万年以上前。
- アイヌの言語に繋がりのある記述が日本書紀や7世紀の日本の古い記録に残されている。
- 1899年、「北海道旧土人保護法」制定。
- 日本政府は4年制の「土人学校」を設立。アイヌの子ども達は優先的に日本語を教育されたことにより、アイヌの言語が奪われていった。

出典：「アイヌ政策のあり方に対する有識者懇談会報告書」（平成21年7月）
<https://www.kantei.go.jp/jp/singi/ainusuishin/pdf/siryou1.pdf>（2023/6/6閲覧）

「ウタリ対策のあり方に関する有識者懇談会」(1996)

- 1974年以來の「北海道ウタリ福祉対策」の実施。
- 1993年「国際先住民年」
- しかし、日本国政府として日本の先住民が持つ問題にいかに取り組むかという議論については深まることはなかった。
- 1996年、「ウタリ対策のあり方に関する有識者懇談会」が発足、1997年4月に報告書が提出された（この懇談会にはアイヌ人は入っていない）。
- 報告書は「アイヌの人々の民族性」として、次のように報告している。

「現在、アイヌの人々は、我が国の一般社会の中で言語面でも、文化面でも他の構成員とほとんど変わらない生活を営んでおり、独自の言語を話せる人も極めて限られた数にとどまるという状況に至っている。」

出典：「ウタリ対策のあり方に関する有識者懇談会報告書」（平成8年4月）<http://www.mlit.go.jp/common/000015022.pdf>（2023/6/6閲覧）

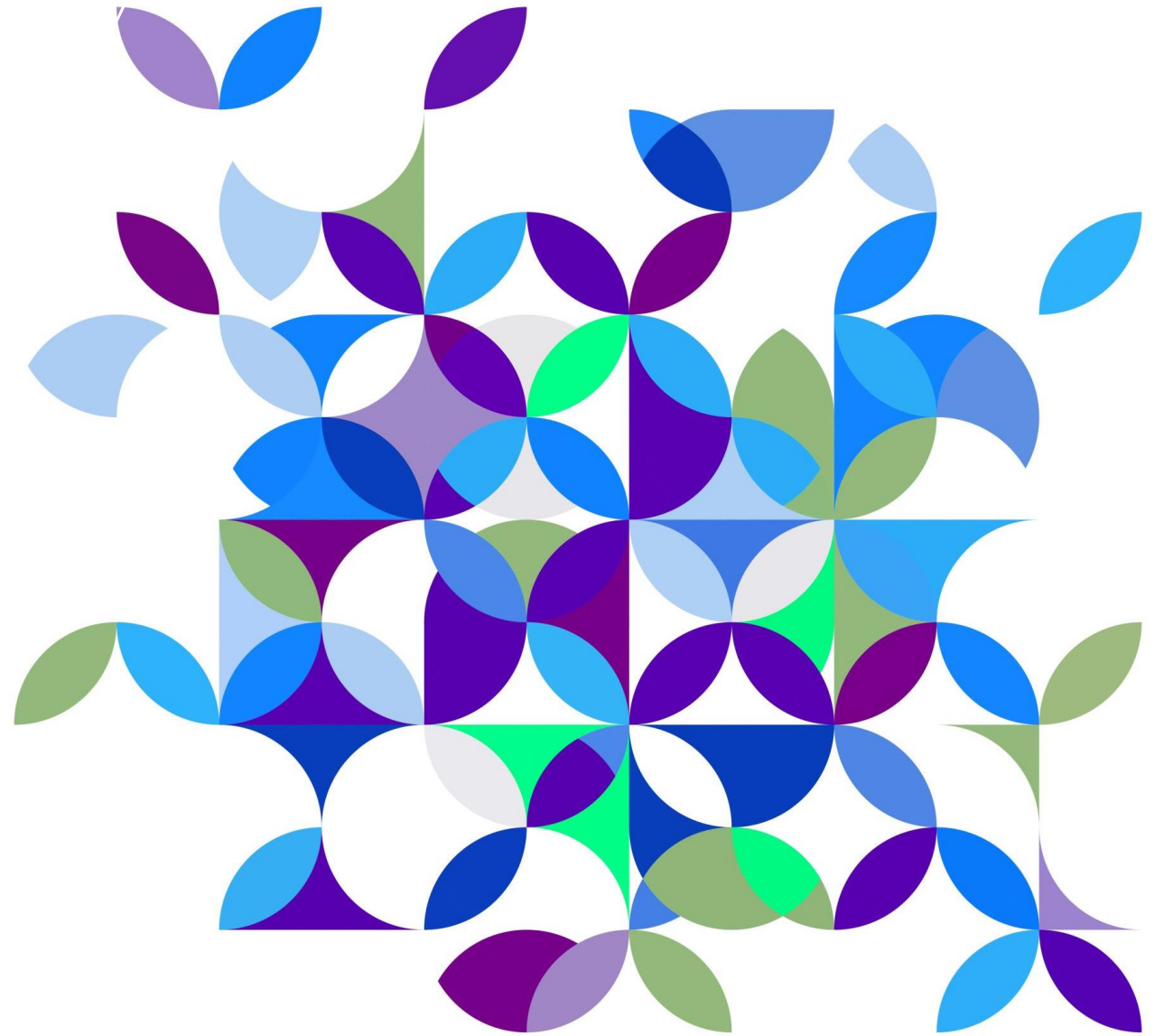
北海道アイヌ生活実態調査報告書 (2017)

- 1972年（昭和47年）以来過去8回にわたって、北海道は「北海道アイヌ生活実態調査」を実施している。
- 2017年（平成29年）の報告書のアンケート調査（N=621）によると、「重点的に行う分野」に関する設問に対し、「アイヌ語」が最も高く（349人（56.2%）、次いで「祭事」（302人（48.6%））、「（民族）舞踊」（170人（27.4%）であった。過去2回でもこの3つの項目は重点的に行うべきという回答が多い。
- すでに触れたように、母語の剥奪は人々のアイデンティティと尊厳を奪う暴力である。
- なお、アイヌの人々のメンタルヘルスやソーシャルワーク（社会福祉）ニーズに関する項目については、「差別を受けたか？」という項目以外見られない。

出典：北海道環境生活部「北海道アイヌ生活実態調査報告書」（平成29年）

https://www.pref.hokkaido.lg.jp/fs/5/5/7/2/6/5/7/_/2%E5%B9%B3%E6%88%9029%E5%B9%B4%20%E5%8C%97%E6%B5%B7%E9%81%93%E3%82%A2%E3%82%A4%E3%83%8C%E7%94%9F%E6%B4%BB%E5%AE%9F%E6%85%8B%E8%AA%BF%E6%9F%BB%E5%A0%B1%E5%91%8A%E6%9B%B8.pdf（2023/6/6閲覧）

ひとりの日本の
ソーシャルワー
ク研究者として
「これでいいの
だろうか？」



ジョイス ティンプソン先生への質問

- 児童福祉当局が、子どもを家族から引き離した歴史の事実は、ソーシャルワークが抑圧者になりうるということを示している。これは日本のアイヌ人への対応を見ても明らかである。ソーシャルワークの抑圧を生み出さないためのヒントは何だろうか？
- 「和解」と「癒し」は実現できるのか？

サリーバン ディング先生への質問

- 伝統的な長老の役割はどのようなものなのか？それは近現代的都市社会のリーダーとは異なるのだろうか。例えば、困った時に相談に行く、何かサポートをするという機能を持っているのだろうか。
- 女性である長老の強みとは何か。

リディア シャーマン 先生に質問

- メディソンホイール、スフィアの枠組みは、とても興味深い。先生がメンタルヘルス・ケアのお仕事をされ始めた時の臨床スタッフたちからの研修と、スフィアの枠組みの違いはあったのか？

シャーマン先生、 バンディング先 生への質問

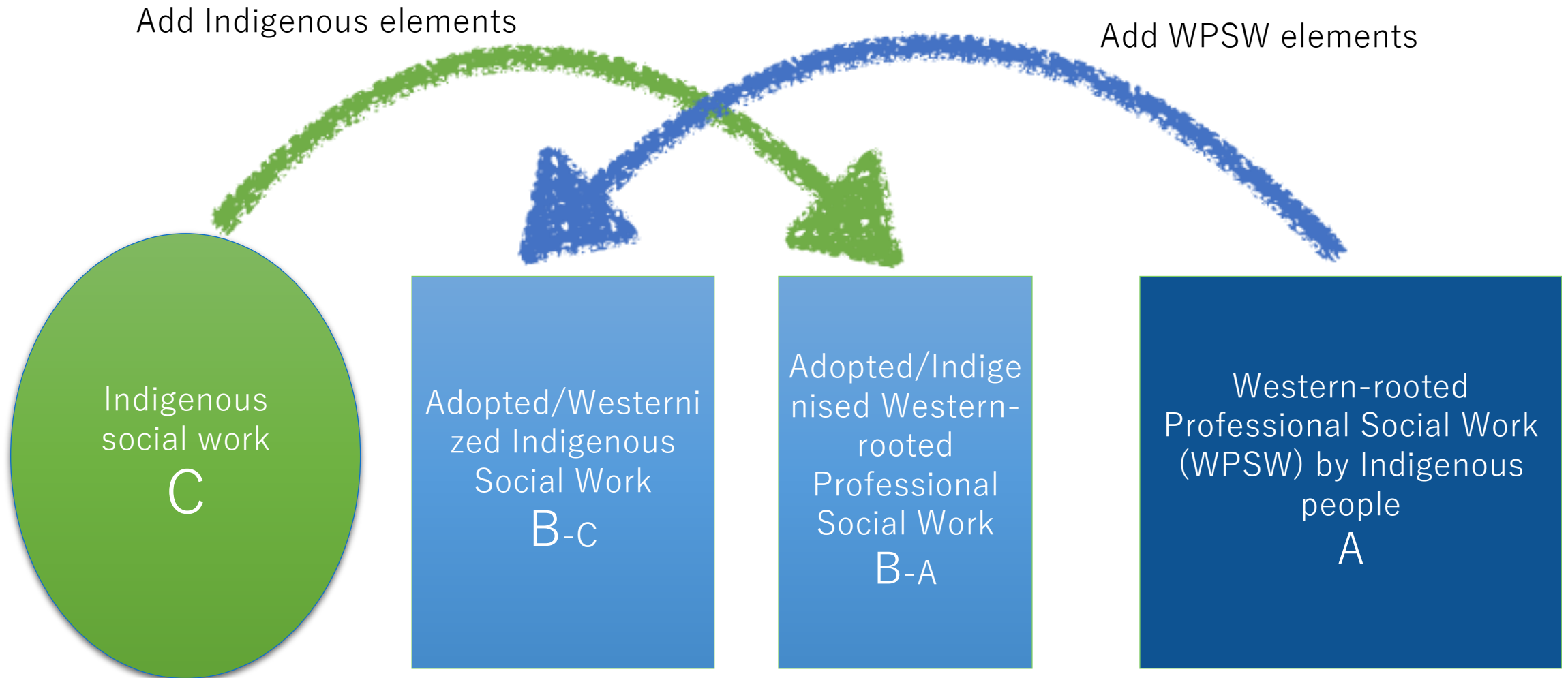
- 日本のソーシャルワークに関わる人々に、考えなければいけないことがお話の中でたくさん出てきた。しかし、非先住民であり、抑圧者でもある人々を、先住民は許してくれるのだろうか？



ARIISWによる仏教ソーシャルワーク研究について（ご参考までに）

- 2010年のソーシャルワーク定義の改訂検討の中で、少なくないソーシャルワーク研究者が西欧ルーツのソーシャルワーク専門職教育への疑問と、ソーシャルワークのグローバル化への疑問を呈してきた。
- 仏教ソーシャルワーク研究ネットワークがアジアの国と地域*を中心に結成、「仏教ソーシャルワークの作業定義」を提案した。
- 2021年、「インディジナス・ソーシャルワークの修正ABCモデル」がARIISWによって発表されている。

*ブータン、カンボジア、中国、韓国、ラオス、ミャンマー、モンゴル、ネパール、スリランカ、タイ、台湾、ベトナム、日本



Source: T.Akimoto.(2020).Buddhist Social Work— Its Birth and Achievement to Date—And the contribution to the development of social work (The provision of the minimum information).In Gohori & Someya ed., Social Work Academics Resisting the Globalization of Western-rooted Social Work: Decolonization, Indigenization Spirituality, and Buddhist Social Work. Proceeding Report. ARIISW. p.16

ありがとうございました。

淑徳大学アジア国際社会福祉研究所に関する情報はこちらから→

